

8月31日、市民サイドの意見交換会概要

2006.9.2

メモ作成者（大西光夫）

1、「地元分」に関する NPO 意見交換会との位置付けでした。主催者は、要望書提出者。よびかけ対象は、地球市民村、市民プロジェクトなどの参加団体。

2、8月31日、18:30 から 21:00 まで、あいち NPO 交流プラザ B 会議室で開催しました。司会進行は大西が務めました。

3、参加者は、よびかけサイドからは、延藤安弘、曾田忠宏、川島康治（自立のための道具の会。モンテ・カセム氏代理出席兼任）、兼田智彦、大西。5名。（地元関係者で欠席：榎田、高野、萩原、ブイチトルン各氏）

4、要望書提出者以外の参加者

井戸田幸子（日本 EV クラブ）、今井恭子（自然育児友の会）、江尻吉彦（愛・地球博市民プロジェクトネットワーク）、太田稔（環境研究所豊明）、加藤仁一（知的生産の技術研究会・東海）、近藤昌宏（愛・地球博市民プロジェクトネットワーク）、榊原孝佐（愛・地球博ボランティアセンター）、新海洋子（エコプラットホーム東海・EPO 中部）、須藤弘子（さおりひろば）、滝川正子（東山森づくりの会）、古澤礼太（愛・地球プラットホーム）、伊藤剛（エコアクションニュース）、加藤慈子（〃）。13名

●愛知県社会活動推進課から神原主幹、中野主査。2名

5、内容

●はじめての方が多かったので、自己紹介しました。

1)今までの経過を共有しました。ほぼ1時間を費やしました。

- ・博覧会協会の「理念継承検討委員会」の答申内容
- ・地元分に関する「検討委員会」の内容（第1回委員会と第2回委員会に向けて）
- ・市民セクターの10名連名による博覧会協会と地元4団体への「要望書」の内容

2)これからの方針、論点について意見交換しました。

●10名の要望書内容（5項目の要望）を踏まえ

●「10. 5億円、公益信託、約10年間の取り崩し型、地元で使用」を前提事項として

・第2回の「地元検討委員会」で、論点とされている下記事項について意見交換した。

ア、基金運営手法

イ、支援対象事業

ウ、支援対象者

エ、支援対象エリア

オ、審査基準

・主要な議論

○大事に使う

○万博の理念とは何か、しっかり議論する場が要る

○愛知の将来像・ビジョンなども描きたい。そこから必要な事業を描く

○愛・地球博に参加協力した者への評価が必要

○「地元」の定義について、政区分けは適さないが、「愛知県に関係する」あたりの解釈で。

○継続的事業にも使用できるように

○人件費、管理費に使用できるように

○協働型事業を評価し支援を

○審査基準は、理念と現場性の両面必要

○公開審査が大事、重要ポイント

○しっかりした「広報、募集、審査、評価、指導」の仕組みが必要。

○運営委員会の構成が重要ポイント

などでした。

・参考

○一般的には、運営委員会が審査も行う。従って、NPO は入らないのが普通。

○福島県の「うつくしま基金」の場合（年間約 1 億円）

運営委員会（NPO 除外。審査）とサポート委員会（NPO が請負。広報・相談）で役割分担している。

○岐阜県「はつらつファンド」（年間約 1 億円）は、NPO（ぎふ NPO センター）が事務局を請負。

6、今後の姿勢・方針

1)市民団体の「参加をひろげること」「まとまること」

2)情報共有、連絡体制をしっかりとすること

3)第 2 回検討委員会に向けて、意見がある場合、大西宛てに送信すること

4)第 2 回検討委員会の結果は、大西が報告する。

以上